

最新の免疫療法解説

徳島市でがんフォーラム

「がん免疫療法の最前線」をテーマにしたフォーラム（徳島大学病院がん診療連携センター主催、徳島がん対策センター、徳島新聞社共催）が11日、徳島市の徳島大蔵本キャンパスであった。徳島大学病院の医師ら8人が最新の免疫療法などを紹介し、市民ら約500人が理解を深めた。

がん診療連携センターの荻野広和センター長は、長期的な治療効果が最大の特徴とされる「免疫チェック



ポイント阻害薬」は、がん細胞によって抑制されたT細胞のブレーキを解除することでT細胞の攻撃力が増し、がん細胞の排除につな

がると説明。抗腫瘍効果を発揮する新たな薬剤の開発も進んでいるとし、「主治医と相談して納得のいく治療を受けてほしい」と話した。

同大学院医歯薬学研究部地域リウマチ・総合内科学分野の森田優特任助教は、肺がんの組織型やステージごとの治療方針を紹介。がん細胞とT細胞を結合して直接攻撃できるようにする新薬「二重特異性抗体」については、予後を延長する画期的な治療だと強調。「免疫療法の効果は強力だが、個人差も大きい」と述べた。（中川優）